

2017年度 第2四半期 決算説明資料

2017年11月30日



-
- 連結財務諸表等に関する誤謬について
 - トピックス
 - 2017年度 第2四半期決算概況
 - 2017年度 通期業績予想
 - 米国工場・栃木工場の改善状況

連結財務諸表等に関する誤謬について

■アーレスティメヒカーナの財務諸表における税効果会計の認識相違

会計上の税務計算において適用するペソ/ドル換算レートについては、国際会計基準に明確な指針は無く取得日レートを適用していた。一般的には、決算日レートの適用が適切とされているため、今回適用レートの修正を過去に遡っておこなった。

※現地通貨と機能通貨が異なる拠点はアーレスティメヒカーナのみのものであり、固有の問題

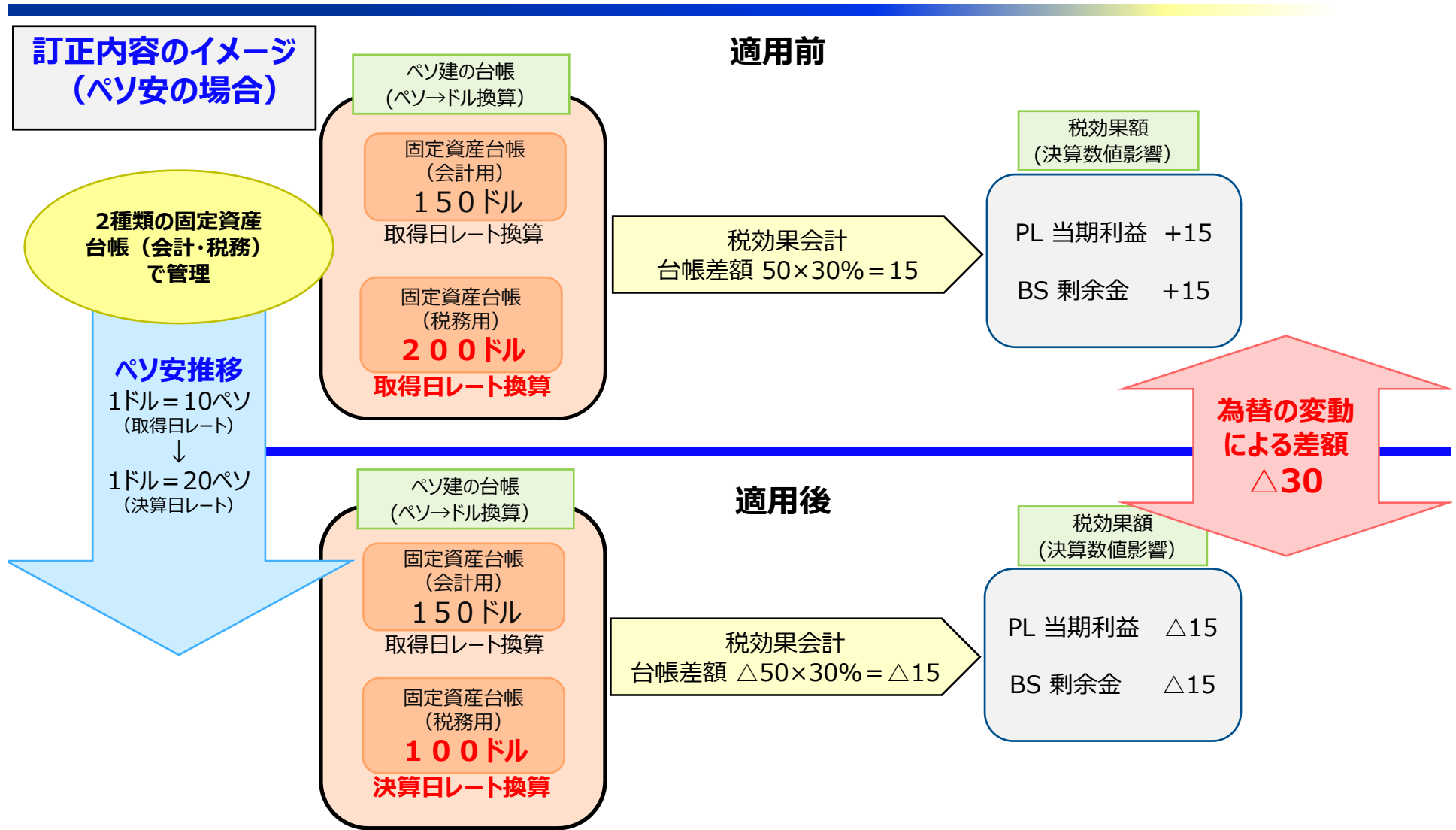
■影響額 純資産 △27億円（平成29年3月期末647億円→620億円）

四半期純利益 7億円（平成30年第2四半期累計額5.5億円→12.5億円）

会計年度	換算レート		①減価償却費 (会計値)	②減価償却費 (税務値)	③差額 (②-①)	税効果額 ③×30%	税効果額 円換算	影響額
17年3月末	適用前	会計値：A 税務値：A	164百万ドル	208百万ドル	44百万ドル	14百万ドル	17億円	-
	適用後	会計値：A 税務値：B-1	164百万ドル	131百万ドル	△33百万ドル	△10百万ドル	△10億円	△27億円
17年9月末	適用後	会計値：A 税務値：B-2	161百万ドル	154百万ドル	△7百万ドル	△2百万ドル	△3億円	+7億円

A:取得日レート 1ドル=10.4ペソ B-1:決算日レート(17/3) 1ドル=20.7ペソ B-2:決算日レート(17/9) 1ドル=18.0ペソ

連結財務諸表等に関する誤謬について



-
- 連結財務諸表等に関する誤謬について
 - **トピックス**
 - 2017年度 第2四半期決算概況
 - 2017年度 通期業績予想
 - 米国工場・栃木工場の改善状況

合肥アーレスティ 2017年7月増築工事開始

中国（地場メーカー）のエンジンブロック等の新規受注

【2018年7月竣工時（予定）】

- 工場面積 土地：67,400m²
建屋：46,136m²

※内、増築予定分

- 鋳造工場：5,004m²
- 加工工場：12,856m²
- 事務棟：3,509m²

- ダイカストマシン台数：15台

■2017年9月現在

(工場面積) 土地：48,420m²
建屋：24,767m²

(ダイカストマシン台数) 14台



増築部分赤枠表示



-
- 連結財務諸表等に関する誤謬について
 - トピックス
 - **2017年度 第2四半期決算概況**
 - 2017年度 通期業績予想
 - 米国工場・栃木工場の改善状況

2017年度 第2四半期決算のポイント

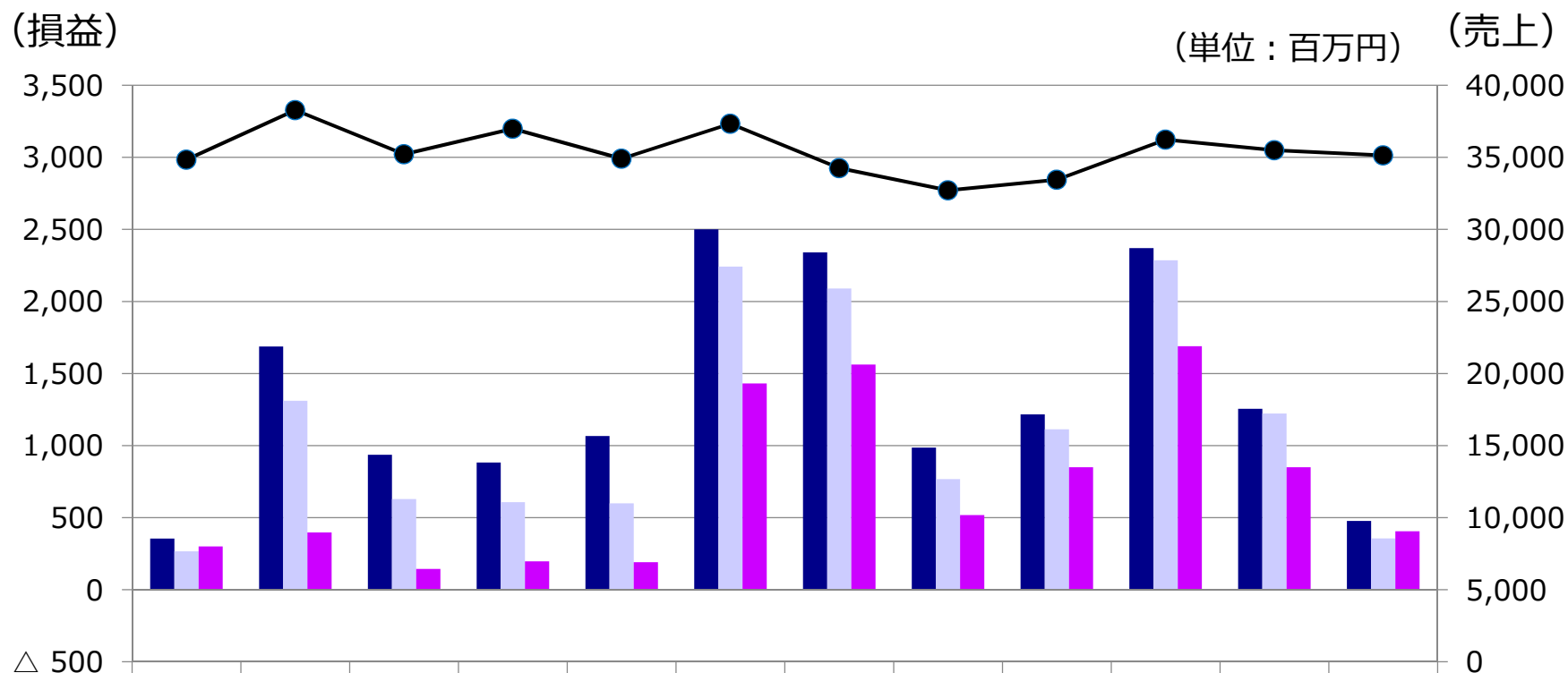
(単位：百万円)

	2016年度 第2四半期		2017年度 第2四半期		増減	
	金額	対前年	金額	対前年	金額	対前年
売上高	66,976	100.0%	70,631	100.0%	3,654	5.5%
営業利益	3,326	5.0%	1,732	2.5%	△1,593	△47.9%
経常利益	2,857	4.3%	1,578	2.2%	△1,279	△44.8%
当期純利益	2,080	3.1%	1,255	1.7%	△825	△39.6%
EPS (円)	80.48		48.56			

《全体感》

- 売上：受注量増加、アルミ地金市況上昇の影響等により増加
- 営業利益：米国、栃木工場での生産性改善の遅れ、価格改定の影響等により減益
- 経常利益：営業利益の減少により減益
- 当期純利益：経常利益の減少、メキシコの為替相場変動による税負担増による減益
- EPS：当期純利益の減少により、31.92円/株減少

連結決算概要（四半期推移）



△ 500

	14年度 3Q	14年度 4Q	15年度 1Q	15年度 2Q	15年度 3Q	15年度 4Q	16年度 1Q	16年度 2Q	16年度 3Q	16年度 4Q	17年度 1Q	17年度 2Q
■ 営業損益	355	1,688	936	883	1,066	2,500	2,340	986	1,216	2,370	1,255	477
■ 経常損益	266	1,311	629	607	599	2,242	2,090	767	1,113	2,286	1,222	356
■ 当期純損益	300	398	144	197	191	1,431	1,562	518	850	1,690	850	405
● 売上高	34,842	38,279	35,217	36,989	34,913	37,332	34,258	32,718	33,453	36,228	35,494	35,136

ダイカスト事業

(単位：百万円)

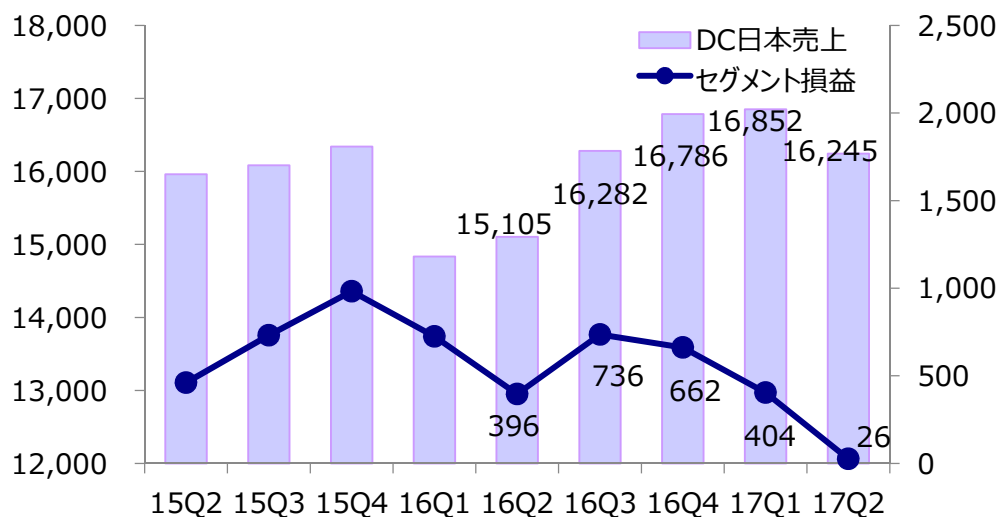
		2016年度 第2四半期		2017年度 第2四半期		増減	
日本	売上高	29,940	100.0%	33,097	100.0%	3,156	10.5%
	セグメント損益	1,121	3.7%	430	1.3%	△691	△61.6%
北米	売上高	21,091	100.0%	20,470	100.0%	△620	△2.9%
	セグメント損益	1,363	6.5%	214	1.0%	△1,149	△84.3%
アジア	売上高	12,663	100.0%	13,920	100.0%	1,256	9.9%
	セグメント損益	577	4.6%	828	5.9%	250	43.4%

- ✓ ダイカストセグメントの海外売上比率
2016年度2Q：53.0% ⇒ 2017年度2Q：51.0%

※ セグメント別の増減要因については、次ページ以降で説明

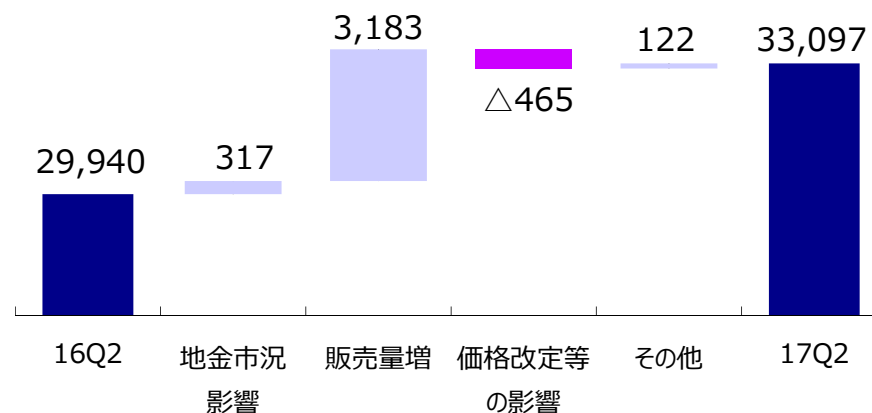
ダイカスト日本

ダイカスト日本売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）

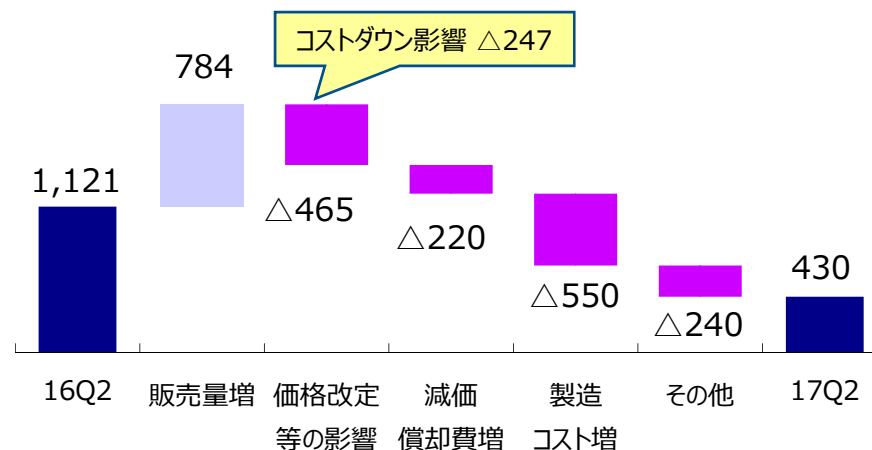


- 売上：31.5億円増（前期比10.5%増）**
- 主要顧客の輸出が好調で受注量が増加
- セグメント損益：6.9億円減（前期比61.6%減）**
- 販売量増加の一方で価格改定の影響等もあり減益
 - 労務費、燃料費の増加
 - 栃木工場における製造コスト削減の遅れ

売上高増減要因（単位：百万円）

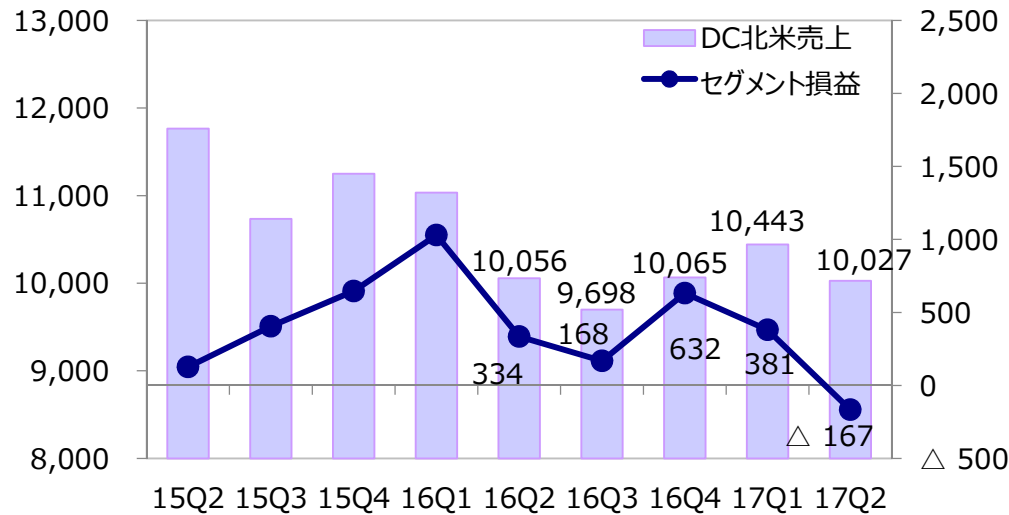


セグメント損益増減要因（単位：百万円）



ダイカスト北米

ダイカスト北米売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上：6.2億円減（前期比2.9%減）

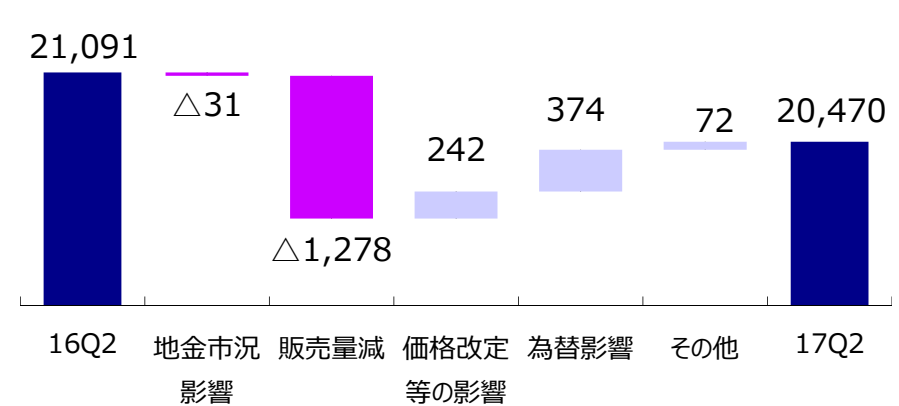
- 米国はダウンサイジング等の影響による受注減
- メキシコでは受注増加傾向

セグメント損益：11.4億円減（前期比84.3%減）

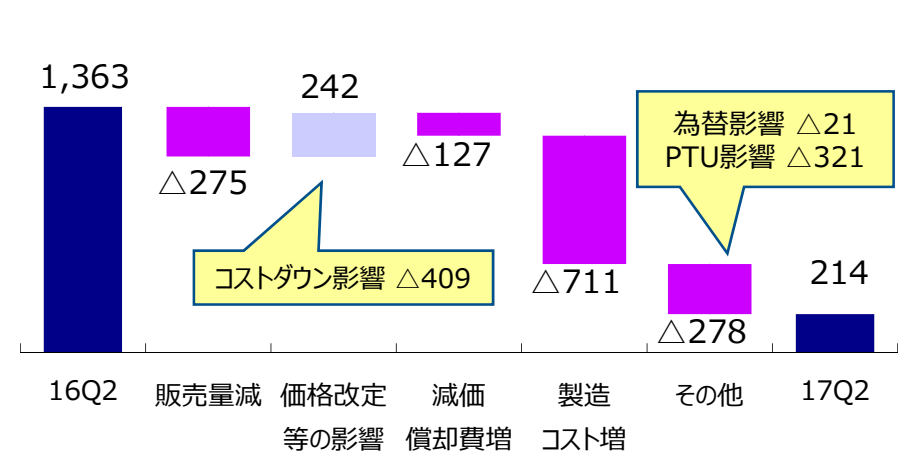
- 米国は売上減少と生産性改善の遅れにより減益
- メキシコは販売増による増益を燃料費増等が打消し（会計基準変更により、PTUを1Qより計上）

決算期:アメリカ3月期、メキシコ12月期
 レート (16Q2⇒17Q2) アメリカ 106.73⇒111.42 メキシコ 113.05⇒112.75

売上高増減要因（単位：百万円）

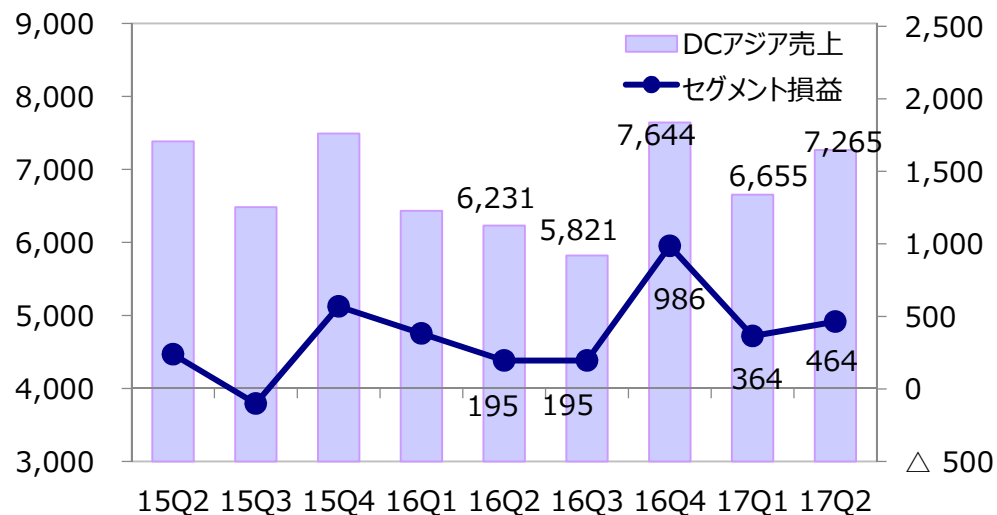


セグメント損益増減要因（単位：百万円）

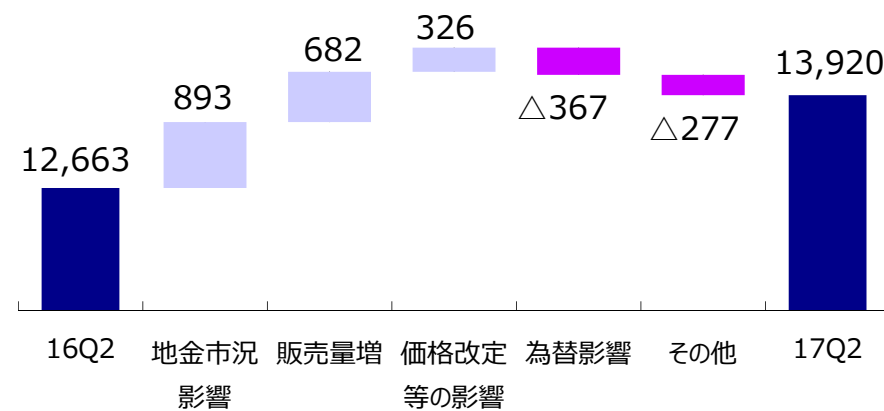


ダイカストアジア

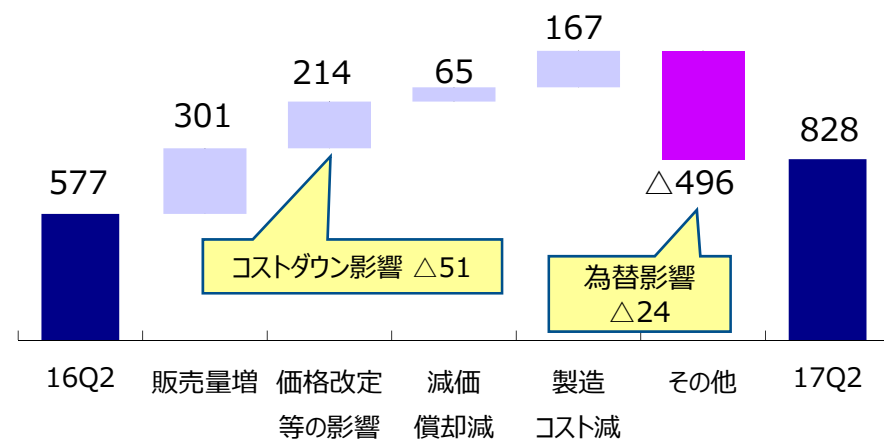
ダイカストアジア売上高／セグメント損益の推移（単位：百万円）



売上高増減要因（単位：百万円）



セグメント損益増減要因（単位：百万円）



売上：12.5億円増（前期比9.9%増）

- 中国はSUV増産等による受注増
- インドも受注増により売上増加

セグメント損益：2.5億円増（前期比43.5%増）

- 中国・インドでの受注増加により増益
- 中国の生産性改善も収益に貢献

決算期:中国12月期、インド3月期
 レート (16Q2⇒17Q2) 人民元 17.22⇒16.42 インドルピー 1.60⇒1.73

アルミニウム事業および完成品事業

(単位：百万円)

		2016年度 第2四半期		2017年度 第2四半期		増減	
アルミニウム 事業	売上高	2,143	100.0%	2,182	100.0%	39	1.8%
	セグメント損益	148	6.9%	115	5.3%	△32	△21.8%
完成品事業	売上高	1,138	100.0%	961	100.0%	△177	△15.6%
	セグメント損益	68	6.0%	143	14.9%	75	109.3%

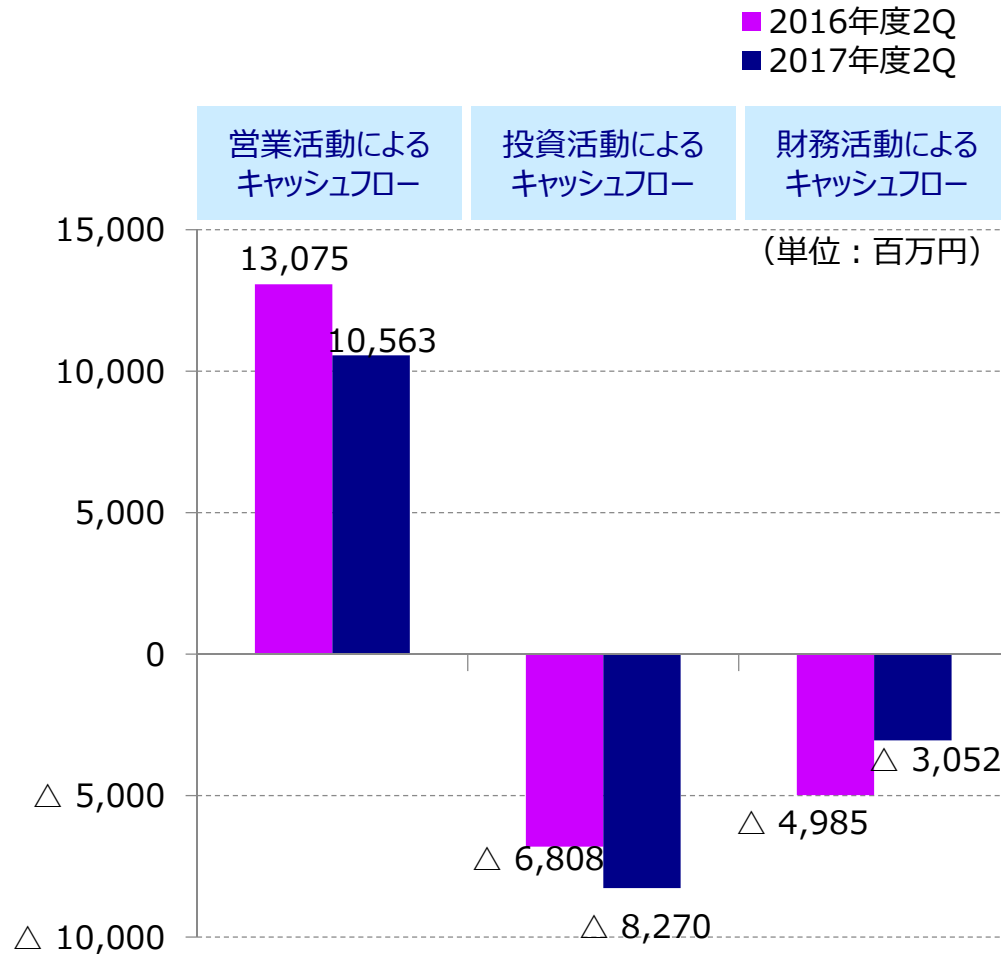
アルミニウム事業

- ▶ 売上：アルミ地金市況変動の影響を受け増収（前期比1.8%増）
- ▶ セグメント損益：燃料費の価格上昇等により減益（前期比22.3%減）

完成品事業

- ▶ 売上：クリーンルーム物件やコンピュータールーム物件の受注が減少し減収（前期比15.6%減）
- ▶ セグメント損益：原価低減活動等により増益（前期比110.2%増）

連結キャッシュ・フロー



17年度2Qキャッシュフロー増減要因

➤ 営業CF

税金等調整前純利益	14億
減価償却費	73億
売上債権の減少 (+)	3億
仕入債務の増加 (+)	9億

➤ 投資CF

北米・アジアの設備投資が増加

➤ 財務CF

長短借入金の減少
(17/3末 328億 → 17/9末 296億)

-
- 連結財務諸表等に関する誤謬について
 - トピックス
 - 2017年度 第2四半期決算概況
 - **2017年度 通期業績予想**
 - 米国工場・栃木工場の改善状況

2017年度 業績予想

(単位：百万円)

	2016年度 実績		2017年度 期初計画(5/11)		2017年度 修正計画(10/25)		対期初計画増減	
売上高	136,657	100%	142,000	100%	144,700	100%	2,700	1.9%
営業利益	6,912	5.1%	7,000	4.9%	4,100	2.8%	△2,900	△41.4%
経常利益	6,256	4.6%	6,400	4.5%	3,850	2.7%	△2,550	△39.8%
当期純利益	4,620	3.3%	4,400	3.1%	2,050	1.4%	△2,350	△53.4%
EPS	178.77		170.24		79.26		—	

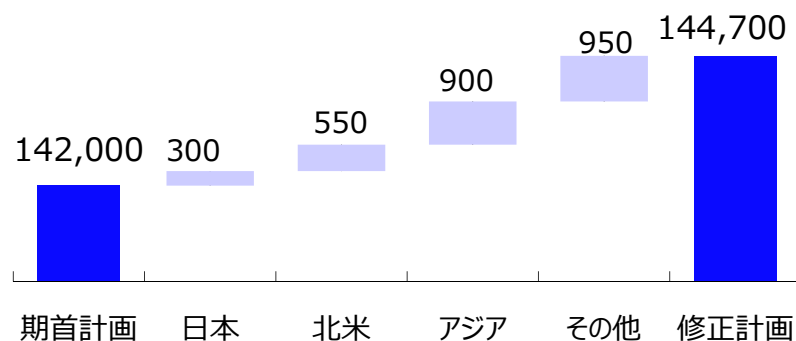
期初計画の前提レート(5/11) : USD 110円 人民元 16.0円 ルピー 1.6円
 修正計画の前提レート(10/25) : USD 110円 人民元 16.0円 ルピー 1.6円

2017年度ダイカスト事業 業績予想

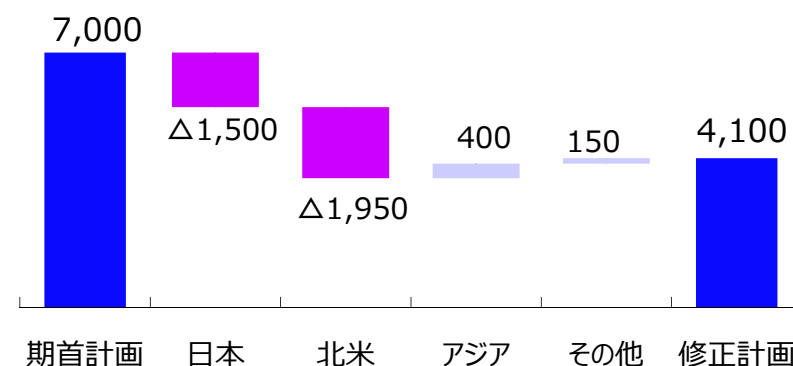
(単位：百万円)

		2017年度 上期		2017年度 下期		2017年度 通期	
		上期実績	期初計画対比	修正計画	期初計画対比	修正計画	期初計画対比
日本	売上高	33,097	697	34,100	△400	67,200	300
	セグメント損益	430	△670	970	△830	1,400	△1,500
北米	売上高	20,470	△230	20,000	800	40,450	550
	セグメント損益	214	△1,136	90	△810	300	△1,950
アジア	売上高	13,920	220	15,400	700	29,300	900
	セグメント損益	828	78	1,050	320	1,900	400

売上高 対期初計画増減 (単位：百万円)



セグメント損益 対期初計画増減 (単位：百万円)

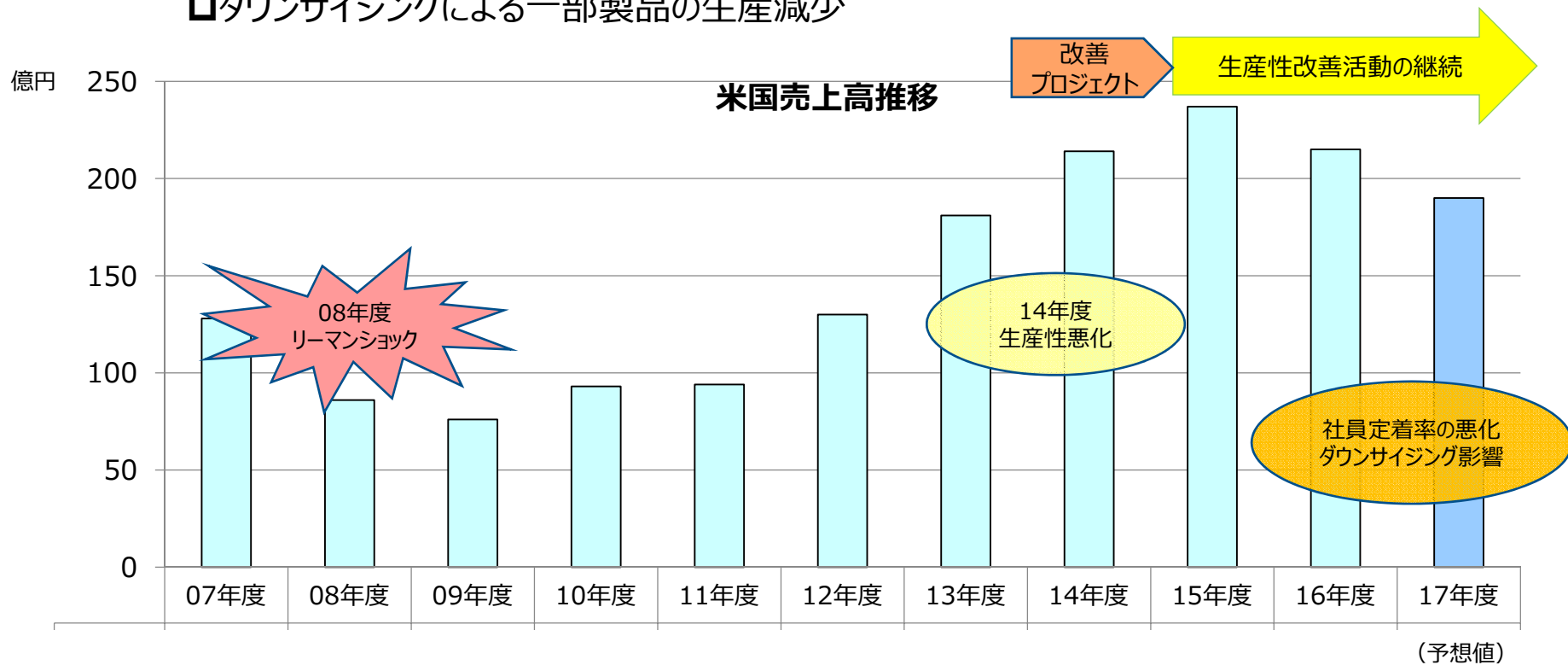


-
- 連結財務諸表等に関する誤謬について
 - トピックス
 - 2017年度 第2四半期決算概況
 - 2017年度 通期業績予想
 - 米国工場・栃木工場の改善状況

米国工場の生産性改善状況

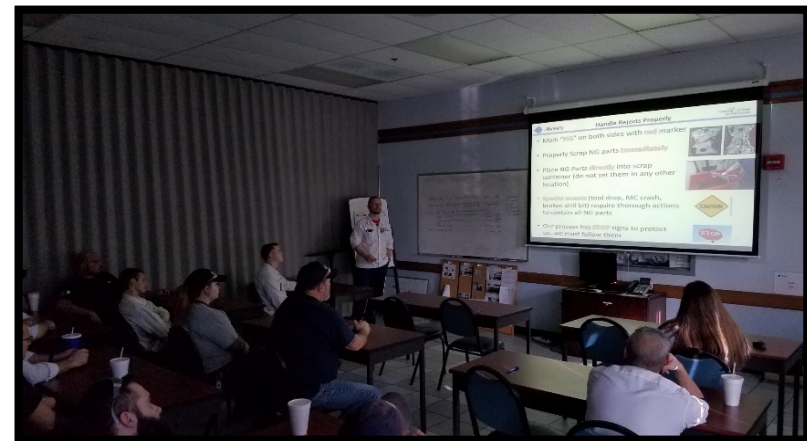
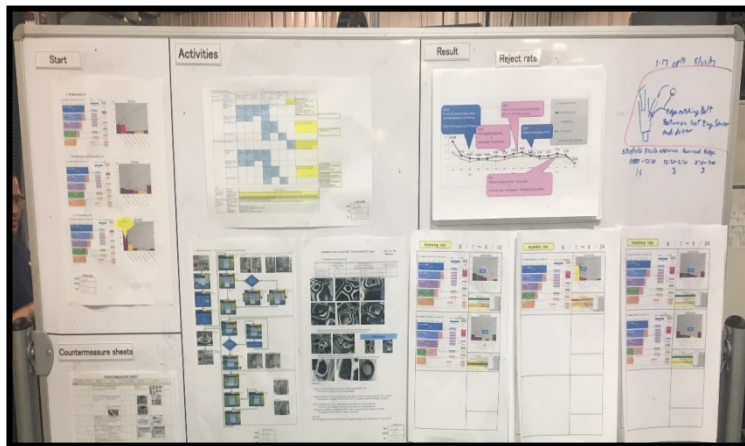
■北米工場の生産性悪化の要因

- 2014年度の工場拡張、新規製品立ち上げ時の混乱からの回復途上
- 米国の景気好調に伴う労働需給タイト化による社員定着率の悪化
- ダウンサイジングによる一部製品の生産減少



米国工場の生産性改善状況

施策	具体的取組み
組織・管理体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> 海外経験が豊富でものづくりに強いトップの派遣 人事マネジメントの強化 日本からの支援者の補充・強化
品質・生産性改善活動	<ul style="list-style-type: none"> 品質改善活動の活性化のための評価システムの構築 チームによるグループ改善活動の推進（QC活動） 日本からの支援者による生産ラインの改善
設備面の改善活動	<ul style="list-style-type: none"> 一部設備の入れ替えと停止時のバックアップ工程の準備 増産に伴う設備増強
作業員・技術員の教育	<ul style="list-style-type: none"> 生産性改善報告会の定期開催によるモチベーション向上施策 外部講師などを利用したデータ解析方法等の習得 新入社員教育のカリキュラム見直し



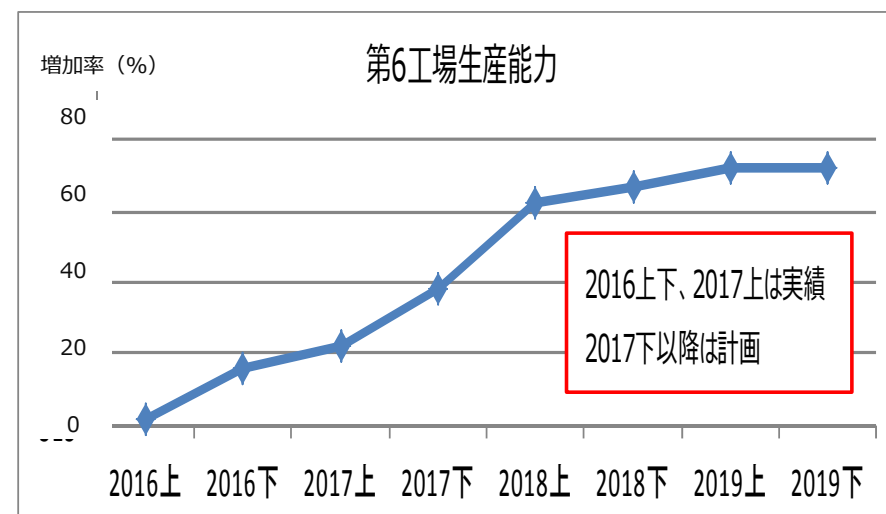
栃木工場の生産性改善状況

■16年3月稼働の第6工場の生産性改善の遅れに対する施策

- 前製造本部長をトップに据えた技術面の改善
- 栃木工場・テクニカルセンター一体となった改善活動を実施
- AGV（自動搬送機）導入等による人件費の削減
- 受注増加に伴うダイカストマシン増設による生産能力の向上



第6工場ブロックの生産能力（ castingダイカストマシン4台、ばり取り、T5加工の一貫ライン）





Casting Our Eyes on the Future

視線はまっすぐ未来へ

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】
株式会社アーレスティ 経営企画部 経営企画課 TEL 03-6369-8664
E-mail: ahresty_MP0_IR@ahresty.com
URL: <http://www.ahresty.co.jp>

本資料および本説明会で述べられた内容には、現時点で入手可能な情報に基づいて当社が作成した将来の見通しが含まれておりますが、様々な要因により、実際の業績はこれらの見通しと異なる場合があります。